

# 東北ハイテク研究会セミナー

～高収益作物サツマイモの新しい産地形成を狙う～

# 1) グリーンな栽培体系への 転換サポート事業活用の狙い

会津坂下町役場 産業課 農林振興班  
農業振興係長 荒井康之

# 会津坂下町の概要



人口	13,847人
世帯	5,235世帯
面積	9,159ha

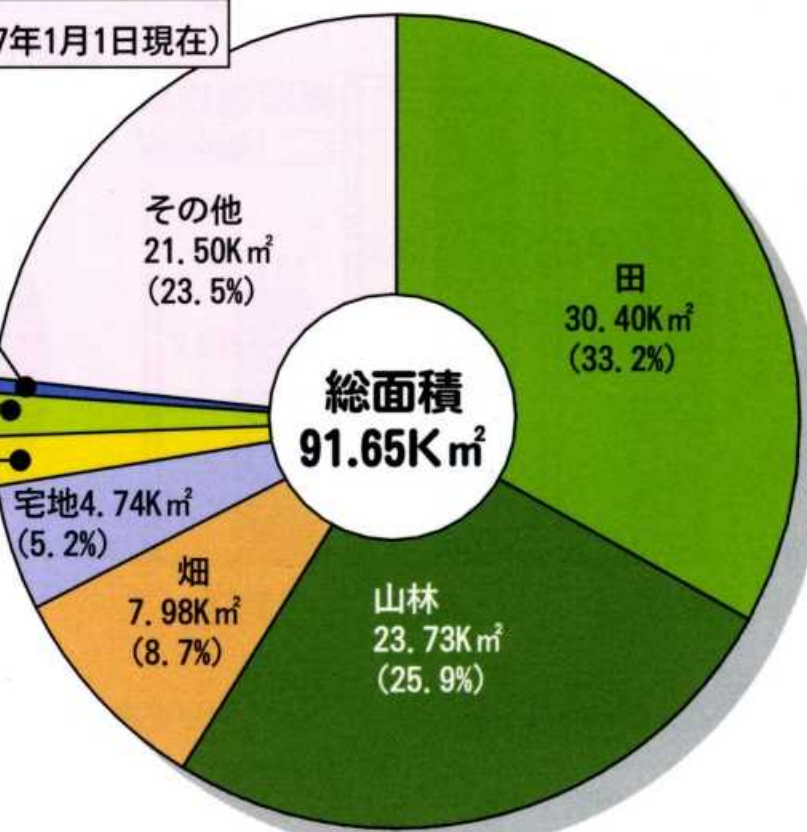


## 地目別面積 (平成17年1月1日現在)

池沼0.06K<sup>m</sup><sup>2</sup>  
(0.1%)

原野1.54K<sup>m</sup><sup>2</sup>  
(1.7%)

雑種地1.70K<sup>m</sup><sup>2</sup>  
(1.9%)



農地 3,838ha  
水田 3,040ha

広大な水田が広がっている所が特徴だが、山林も多い地域で、平地の農家だけではなく中山間地域の農家も多い町

基幹的農業者数 1,405人 ⇒ 1,103人  
(2015年) (2020年)

5年間で約300人も減少

現在、町の農地の約40%を65歳以上が耕作！！

認定農業者数 一番多かった2017年は259名  
現在は・・・ 153名と7年で100名も減少

新規就農者数 令和に入り6年間で8名のみ

- ・ 農業従事者の高齢化
- ・ 後継者や新たな担い手が不足
- ・ 資材や機械が高騰しているのに所得は上がらない

このままでは、近い将来、約3,800haの農地が荒れてしまう

- ・ 高収益作物の推進 → 所得向上  
でも、作付面積は小さいのに手間はかかる  
→ 広大な水田は守れない
- ・ 水稲、土地利用型作物（麦・そば）の作付け  
作付面積は大きい・・・でも所得は？

『どちらもカバーできる方法はないのか？』

- ・ 高収益作物の推進 → 所得向上  
でも、作付面積は小さいのに手間はかかる  
→ 広大な水田は守れない
- ・ 水稲、土地利用型作物（麦・そば）の作付け  
作付面積は大きい・・・でも所得は？

『どちらもカバーできる方法はないのか？』



(株)アルス古川 代表取締役 古川陽平さんから相談

「水稲に適さない圃場があり、サツマイモを作付けしようと思っている」

町としては、不安はありながらも  
土地利用型の高収益作物であるサツマイモの導入は、  
新たな経営品目となる可能性がある！！

「新たなサツマイモの産地になる可能性も??」

(株)アルス古川にて  
令和4年度からサツマイモの作付けに挑戦  
しかし、初年度から以下の問題が・・・

- ・ 雑草対策
- ・ 収量の確保
- ・ 品質の向上
- ・ 人員の確保

サツマイモの専門家から技術的アドバイスがほしい

令和5年度より

グリーンな栽培体系への転換サポート事業の活用

課題解決に向けた実証試験を開始

【技術指導、支援】

- ・ 農林水産省産学連携支援コーディネーター 小巻 氏
- ・ ヤンマーアグリジャパン(株)
- ・ 会津農林事務所会津坂下普及所

【実証試験協力生産者】

- ・ (株)アルス古川 代表取締役 古川陽平 氏
- ・ 佐藤武喜 氏
- ・ (株)齋藤農園 代表取締役 齋藤公一 氏 (R5のみ)

【雑草対策、収量の確保、品質向上】

~~マルチ~~で対応 → 収穫時、後に回収する手間  
石油由来資材のため産業廃棄物

生分解性マルチを使用 → 回収する手間の軽減  
環境負荷低減

## 【収穫時の人員確保、品質向上】

専用の収穫機導入 → 人員不足解消  
収穫時のキズ等の軽減

サツマイモの収穫機（ポテカルゴ）は手配できず  
ヤンマーアグリジャパン(株)で、ジャガイモの収穫機  
を改良したもので実証

## 【結果】

「品質は多少向上」 「人員不足は若干解消」



## 令和5年度の実証結果

排水対策、定植時の苗管理、除草が上手くいかず、  
「生分解性マルチを使用した圃場で収量が減少」

収穫期の天候不順により

「収穫できなかった圃場があり、収量の減少」

- 
- ・ 排水対策
  - ・ 定植時の苗管理
  - ・ 除草作業の改良
  - ・ 収穫機の改善

令和6年度も実証試験継続



最大の目的は、

「広大な農地を荒らさず保全すること」

そのためには . . .

機械で作業できる新たな作物が必要

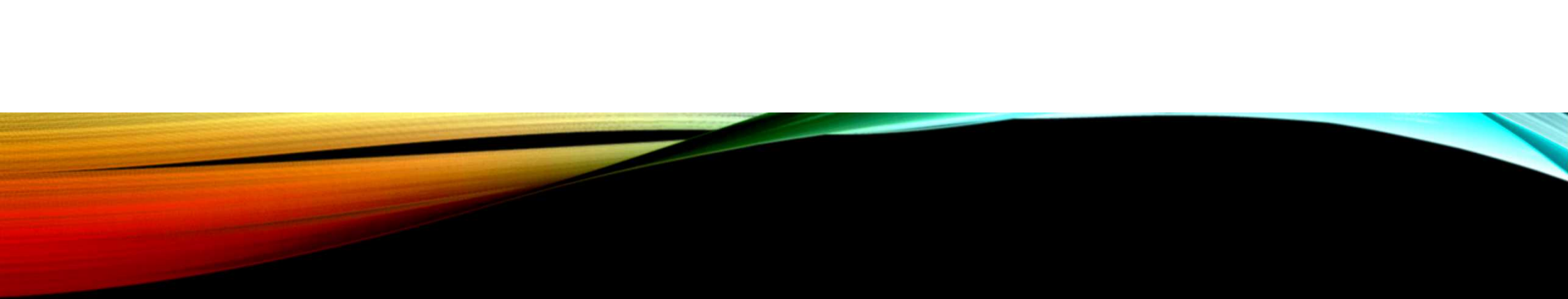
さらに収益性が高いものであること



新たな経営品目となる可能性

新たなサツマイモの産地になる可能性

ここに実証試験を行う価値がある



ご清聴ありがとうございました